

4 月期相場概況

4 月期の日経平均株価は約 719 円上昇した。期中の高値は 4/10 の日中高値 9,068 円、安値は 4/1 の日中安値 8,088 円。

4 月期の日経平均は、前期末の急落直後の動きからのスタートとなった。前期末の流れた GM 破産申請観測は杞憂に終わり、日経平均は 8,000 円の大台を 2 日連続で守ると、再び上昇に転じ日経平均は 2 営業日で 8,800 円台近辺を回復、再び高値を伺う展開となった。第二週は SQ を控え、売り方の買い戻しを加速する形で上昇を継続、SQ では、9,000 円台の大台を回復した。この理由としては、堅調な海外相場と円安、そして、less negative、悲観過ぎの修正が一番の要因と考えられる。第 3 週は米株が引き続き堅調、なかでもダウより S&P、ナスダックの上昇が強いことは相場の楽観ムードを反映していると言える動きであった。その中でも金融セクターは好決算に助けられ形で、大幅上昇を受け、これまでの超悲観ムードは大幅に改善された。また、円安が進み 1 ドル=100 円の大台を突破した。日経平均は他国市場と比べると、頭が重く推移し、これまでの大幅上昇で流石に一服感、利益確定の売りが見られた。第 4 週は世界的にも、若干の調整が見られ、日経平均も下落した。今期末は来期頭に GW を控えているため、日経平均の出来高は休日が近づくことに小動きとなり、夜間海外の清算値にさや寄せする形で GAP し、その後日中小動きという展開が前半の中心的な動きであった。祝日前の 4/28 に海外夜間先物の下落を受ける形で日経平均は 8,500 円を割り込む動きとなり、調整局面入りかと思われたが、祝日の間海外が堅調であったことで、底堅さを確かめる形となり、日経平均は再度上昇を開始し、結局 8,828 円で今期を終えた。

リンカーン・インヴェストメント株式会社